

「しっとり」の意味分析

陳 帥

キーワード 「しっとり」 多義語 潤い 落ち着き 関連性

1. はじめに

「しっとり」は、下記の例に用いられているように、「肌触り」「色合い」「雰
囲気」「文章」を表し、複数の意味を持っている。したがって、本稿は「しと
り」を多義語¹として捉え、その意味を分析・記述する。

- (1) 肌にハリと弾力を保たせるアンチエイジングクリーム。「翌朝まで肌
が乾かずしっとり²。(BCCWJ 雑誌『an.an』マガジンハウス 2002)
- (2) 白や紫や紅など、日なたでは鮮烈な色が、夕景のにび色をまぶされて、
しっとりと落ち着いた色あいを見せている。
(『笑い絵』出久根達郎著 文芸春秋 1995)
- (3) 津市安濃町草生の比佐豆知菅原神社の近くでは、一本だけ花を残した桜
が、最後の盛りを見せた。人通りのない静寂の中、薄ピンク色の花びら
に小雨が降りかかり、しっとりした雰囲気を醸し出していた。
(中日新聞 2014.04.19)
- (4) そのひとの手紙を、私は三度、読んだことがある。しっとりとした文章
の、つまり、恋文というものであった。
(『ミステリー日本地図』三浦浩 新潮社 1989)

2. 先行研究の検討

「しっとり」の意味を分析・記述したものは、管見の限り、国語辞典、擬音
語擬態語辞典に限られる。本稿は、擬音語擬態語辞典である飛田・浅田(2002)
を中心に、小野(2007)、山口(2002)に触れながら検討する。

まず、飛田・浅田(2002)は、次のように記述している。

- (I) 湿気や水分がしみこんで内部が少し濡れている様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。濡れていることが対象にとって好ましいかどうかによって、イメージが決まる。
押入れの下段のふとんがしっとりしている。
春雨にしっとりと濡れた木々の緑が新鮮だ。
- (II) (I)から進んで、湿気や水分が適度にゆきわたっている様子を表す。ややプラスイメージの語。物の表面や内部に水分が適度にゆきわたっている様子を表し、快感の暗示を伴う。湿気の多い日本の気候を肯定的に捉えた語で、日本文化のひとつの特徴を表している。
この乳液をつけると翌朝肌がしっとりとなる。
しっとりしたスポンジケーキがおいしい。
- (III) 潤いがあるって落ち着いて見える様子を表す。プラスイメージの語。景色や女性の容姿など主に外見に潤いがあるって落ち着いて見える様子を表し、美の暗示がある。湿潤な物に美を見出す日本文化の特徴を表した語。
金沢はしっとり (と) した日本情緒漂う町だ。
結婚したらしっとりと落ち着いてきたね。

(pp.190-191)

飛田・浅田(2002)は、「湿気や水分」が意味(I)の「しみこんで内部がすこし濡れている様子」から、意味(II)の「適度に行き渡っている様子」へ進んだとしている。意味(I)は中立的なイメージとされ、意味(II)はややプラスイメージとされていることから、意味が(I)から(II)へ進むのに伴って評価性が変化するということになる。しかし、「しっとり」の実例を観察すると、意味(II)を表す場合に限らず、好ましく捉えられている場合が多い。マイナスに捉える場合は「じっとり」が用いられていることが多く、オノマトペの「清濁の音象徴差」によると考えられるが、「しっとり」がプラス評価を伴う動機づけは明らかではない。

意味(III)は、「潤いがあるって落ち着いて見える様子」だと記述されているが、「潤い」には、水分があるという物理的な「潤い」と実際には水分がない抽象的な「潤い」がある。しかし、「水分がある潤い」と「水分がない潤い」、そして、「潤いがある様子」と「落ち着いて見える様子」の間に、どのようなつながりがあるのかは明らかではない。

また、「しっとり」には、「触覚」の他に、例(5)(6)のような「視覚」「聴覚」を表す意味、そして、例(7)のような新奇な意味がある。しかし、これらの意味

は、実例が存在するが、辞典類には記述されていない。

- (5) 三脚やスクリーンなど撮影機材はほとんど父から引き継ぎ、デジカメではなくフィルムにこだわる。しっとりした色合いが出るという。
(中日新聞 2010.11.19)
- (6) FM802はこのほど、大阪城ホールに約1万人を集めて春恒例のライブ「REQUESTAGE (リクエストージ)」を開催した。11回目。観客は、時に激しく時にしっとりした音とリズムに酔いしれた。
(毎日新聞 2013.05.11)
- (7) そのひとの手紙を、私は三度、読んだことがある。しっとりとした文章の、つまり、恋文というものであった。
(同(4))

さらに、これらの意味の関連性と意味のネットワークについて、これまでの記述では明らかではない。

次に、「しっとり」が人間に用いられる意味として、小野(2007)では、「女性の、静かな中にも潤いやほのかな色っぽさが漂っているさま」、山口(2003)では、「女性の上品でしとやかな様子」といった記述がなされている。確かに数多くの実例において、女性に用いられているが、次の例では、男性に用いられている。

- (8) ファッションは時代を映し出す鏡であり、時代が求める男性像は常に変化していく。今回のコレクションでは、しっとりとした大人の色気を感じさせるような装いを提案するブランドが目付いた。
(読売新聞 2014.07.30)

例(8)では、男性のファッションについて述べられており、「しっとりした大人の色気を感じさせるような装い」は、男性の装いを描写している。この例から、「女性」のみに用いられるわけではないことがわかる。

以上で指摘した先行研究の問題点を踏まえて、本稿は、認知言語学の意味観に基づいて、「しっとり」の意味を精緻に分析していきたい。

3. 分析

本節では、多義語分析の課題³を踏まえ、「しっとり」の複数の意味を認定し、

記述する。

3.1 分析の前に

分析に入る前に、「水分がある」「潤いや落ち着きがある」というのが、私たちにあって、どのような経験と結びついているのかを確認する。

まず、物に水分が含まれると、一般的に物理的に重いと感じられるが、「重い金の塊」はプラスに捉えられるのに対して、「重い荷物」はマイナスに捉えられるだろう。同様に、抽象的な事物についても、「罪が重い」や「病気が重い」などマイナスに捉えられる場合及び、「重い直球」「重みのある言葉」などプラスに捉えられる場合がある。物に水分が含まれ、物理的に重いことは、どのようにプラス評価に結びつき、どのようにマイナス評価に結びつくのだろうか。この「重い」に関する経験については、新地(1997)が言及している。

新地(1997)は、「同じ方向であっても、相反する意味を持つということはある。また、それぞれの方向づけについて、別々の動機づけをすることも可能である」とし、「上下スキーマと重力の経験」について、次のように説明している。

「上」は重力から解放されている状況であり、「下」は重力によって圧迫され、重力に逆らえない状況である。このことから、「良いことは上、悪いことは下」というメタファーが生じると考えられる。さらに、重力に逆らうのは力のいることである。このことから、「力があるのは上、力がないのは下」というメタファーが生じると考えられる。また、重力から解放されているのは良いことでもあるが、宙に浮いているということでも不安定でもあると考えることもできる。
(pp.100-101)

この説明にあるように、「宙に浮いていると不安定である」と捉えられるのであれば、「重力によって圧迫されていると安定している」と捉えることもできる。つまり、「重い」ということは、安定感、落ち着きがあるとプラスに捉えられるのである。例えば、雨の日には、「じめじめしている」、「気分まで落ち込む」などの経験があるが、「動かないで穏やかに室内で過ごす」、「湿潤な空気の中で心をいやす」などの経験もある。「動かない」「心をいやす」ことは、いずれも落ち着きがある状態だと捉えられる。

私たちは、体に水分が含まれる経験について、体が「重い」というだけでなく、「体に水分が十分にあるときには、体がうまく機能する。体に水分を欠くと

きには、体のバランスが崩れる」という経験も持っている。人間にとって、水分は必要不可欠なものである。それは体の内部に限ったことではない。肌にも水分が十分に含まれるときには、乾燥していないので、柔らかくて肌触りがいい。肌に水分がないときには、乾燥するので、肌触りがよくない。一般的に、老人の肌は乾いたイメージであるのに対して、子どもの肌は柔らかいイメージであるのは、このように水分が十分に含まれているか否かが関わると思われる。植物の葉も水分が多いとつやがあり、土も水分が含まれると柔らかいと感ぜられ、「潤いがある」と捉えられる。このように、「水分がある」ということは、「落ち着きがある」「潤いがある」と深く関わっている。

以上挙げたのは、いずれも物理的に「水分が含まれる」「潤いがある」場合である。だが、色、音などの水分が実際に含まれていないものについても、私たちは「潤いや落ち着きがある」と捉えることがある。これはなぜだろうか。

一般的に強烈な色を見たり、激しい音を聞いたりすると、心が落ち着かないと感ぜる。逆に、穏やかな色や音を見たり聞いたりすると落ち着く。同様に、「雨の湿った匂い」「したたるような新緑の香り」を嗅ぐと、心までも落ち着く。

さらに、人間の場合は、肌、髪、目、唇なども、水分が多いと、柔らかくてつやがあるので、好ましいと捉えられる。また、見た目だけではなく、しぐさや話し方にも柔らかくてつやがあるという印象を抱かせるものがある。それは、品のいい、魅力的なイメージをもたらし、その雰囲気は潤いや落ち着きを感じさせる。雰囲気には、人の雰囲気その他、空間の雰囲気もある。例えば、穏やかな光があふれる部屋、小雨が降り続く朝、そういった空間の中にと、心が落ち着き、癒される。

以上から、様々な対象に「潤いや落ち着きがある」と感ぜられることは、いずれも心が癒され安定した気持ちになるという同じ感情を呼び覚まされることを基盤にしているのだと言える。次節以降は、このような身体的経験に基づき分析を進める。

3.2 別義1<対象に潤いがあると五感で感ぜられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-1<対象に水分があると触感で感ぜられ好ましく捉えられるさま>

- (9) 肌にハリと弾力を保たせるアンチエイジングクリーム。「翌朝まで肌が乾かずしっとり。 (同(1))
- (10) こちらの冬は雪や曇りが降ったかと思うと、急に明るくなったり、又ぐおーんと重たい雲が垂れこめたりと空の仕事が忙しいけれど、空気はしっ

とりと水分を含み柔らかい。さすが美肌県1位の島根！

(毎日新聞 2013.11.26)

- (11) 和食と合うフランスパン。(中略) 最大の特徴は水分の多さだ。普通のフランスパンの1・3倍も水を加える。職人泣かせの緩い生地になるが、焼くと皮はパリパリ、中はしっとり。(毎日新聞 2014.04.28)

例(9)の「しっとり」は「肌が乾かず」という状態を表し、例(10)の「しっとり」は「空気」が「水分を含み柔らかい」という状態を表している。例(11)の「しっとり」は「フランスパン」のパリパリの皮と異なるパンの中の状態を表し、その最大の特徴が「水分の多さ」であると述べられている。つまり、話題の対象に水分が含まれた「クリームの使用感」「空気の肌触り」「パンの食感」を「しっとり」で表している。「肌触り」や「食感」は、いずれも「触覚」によって捉えられている。人の嗜好によって異なるが、水分があれば、肌が潤って肌触りがいいと感じる。乾燥した空気より、「水分を含む」空気が、肌にやさしい。また、パンの食感は、乾いたパンより、「水分が含まれる」パンの方が柔らかい。

別義 1-2<色に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

- (12) この年は早くに気温の低い日があり、紅葉は格別に鮮やかなのだと聞いた。半分は散ったのだろうか。水面も岩の上も隠れるほどの敷き紅葉。道にも赤じゅうたんを敷いたようだ。細かい雨にぬれて、しっとりとした色つやは、心まで潤うようだった。(朝日新聞 1999.08.07)
- (13) 展示は日本の風景を描いた「能登にて」(45×90センチ)や花、静物などをモチーフにした近作20点。山口さんは「中西さんの絵に描かれた色彩は、すべて紙の中に染み込んだ色で、しっとりとした深みがある。」と語った。(毎日新聞 2006.03.01)

例(12)の「しっとり」は「細かい雨にぬれている紅葉の色つや」、例(13)の「しっとり」は「絵の色彩の深み」を表している。「細かい雨にぬれた紅葉のつや」は「心まで潤うよう」とあり、「深みのある色」は「すべて紙の中に染み込んだ」とあり、「水分」を感じさせる。それらを見ると、色に潤いがあると感じられ、心が癒される。

別義 1-3<音声に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

- (14) FM802 はこのほど、大阪城ホールに約 1 万人を集めて春恒例のライブ「REQUESTAGE (リクエストージ)」を開催した。11 回目。観客は、時に激しく時にしっとりした音とリズムに酔いしれた。
(毎日新聞 2013.05.11)
- (15) 耳もとで、声が聞こえる。やさしい、男の声。心に染み入るような、しっとりした声。いつも、余裕を失わない。(BCCWJ 『柘榴の影』 前田珠子 集英社 1991)

例(14)の「しっとり」は、「音とリズム」を表しており、「激しい音とリズム」と対立する「激しくない、穏やかな音とリズム」であると考えられる。例(15)の「しっとり」は、「男の声」を表しており、「やさしい」「心に染み入る」とあるように、やさしくて穏やかな男の声を表している。「染み入る」という表現からも、音声水分のように吸収されて心まで届くものとして捉えられていることがわかる。それが「潤いがある」と感じられる。

以上、別義 1-1 (触覚)、別義 1-2 (視覚) と別義 1-3 (聴覚) は、現行の辞典に記述されている。一方、五感の内、他の感覚である「嗅覚」「味覚」を表す意味は、次のような例が見られるが、辞典には記述されていない。

- (16) 高山市西之一色町の観光施設「飛騨開運乃森」でコアジサイが満開になり、淡い青色の小さな花がしっとりとした芳香を放っている。
(中日新聞 1999.08.18)
- (17) 「乾パンに代わる非常食」をうたう商品も出てきた。(中略) パン生地を缶に入れて焼き上げることで殺菌し、脱酸素剤で酸素を抜く。カビの発生も抑え、長期保存が可能になった。かめばしっとりした味わいがある。
(朝日新聞 2004.01.20)

例(16)は「香り」、例(17)は「味わい」を「しっとり」で表している。例(16)では、「コアジサイ」というと、梅雨時に花を咲かせるので、花が満開になるとき、「コアジサイ」の香りも雨の中で漂うと想定でき、潤いが感じられる。例(17)では、「乾パンに代わる非常食」について述べられているが、普通の非常食の乾パンは、水分がなくてかたいが、この非常食は、乾パンとは違って、普通的水分があるパンのように柔らかいものだと読み取れる。そのため、その味わいには水分があって潤っているように捉えられる。

「嗅覚」「味覚」を表す意味は、辞典に記述されていないが、上記の例からわかるように、定着度が高い意味と同様に、「潤いがある」と捉えられる。これらの「しっとり」を次のように記述する。

事例 A <匂いに潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

事例 B <味に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

以上、「しっとり」が、「触覚」「視覚」「聴覚」「嗅覚」「味覚」を表すことが確認できた。「触覚」「視覚」「聴覚」を表す意味は定着度が高いのに対して、「嗅覚」「味覚」を表す意味は辞典にも記述されておらず、定着度が低いが、すべての意味から、<対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま>という共通点が抽出でき、この共通した意味が別義1である。

3.3 別義2 <対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義2-1 <人間の全体像に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

- (18) 声やしぐさに独特の色気をみせ、和服が似合う しっとり 型の日本美人だった大原麗子さん (享年 62) は、“かわいい女” の代名詞がぴったりくる女優だった。 (中日新聞 2009.08.08)
- (19) どこか大人びた雰囲気デビュー時から漂わせている岩本公水 (くみ)。よく言えば、しっとり した落ち着きや抑制のきいた知性を感じ、意地悪くとらえれば、弾むような明るさや挑戦的な冒険心が見えない。だが、岩本も 27 歳、今年で 9 年目を迎える中堅どころに入った。つまり、イメージと現実の足並みがそろってきたと言える。新曲「絹の雨」は、そんな岩本の「素」を表現したような聴き手を安心させる落ち着いた曲である。 (毎日新聞 2003.04.23)

この2つの例の「しっとり」は、いずれも女性の全体像が醸し出す雰囲気を表している。例(18)では、「声やしぐさの独特の色気」、「和服が似合う」とあり、大原麗子さんは、声、しぐさ、見た目、姿などに、色気があって、魅力的な「かわいい女」であることがわかる。これらは、複合的にこの人の雰囲気を醸し出し、潤いと落ち着きを感じさせる。例(19)では、「岩本公水」が 27 歳の若さで

ありながら、「弾むような明るさや挑戦的な冒険心が見えない」「大人びた雰囲気」「抑制のきいた知性」が感じられるとある。その「岩本公水」が漂わせる「しっとりした落ち着き」は、人の心を癒し、落ち着かせるような雰囲気を表している。

「しっとり」は、人に用いられるとき、一般的に上掲の例のように、経験のある、潤いと落ち着きのある女性を指す。しかし、穏やかで魅力的な男性を描写することも可能である。前掲の例(8)では、「時代が求める男性像が常に変化していく」ということから、男性像が変化していく中で、「しっとりとした大人の色気」が求められるようになったことがわかる。「しっとり」が表す「潤い」や「癒し」は、一般的に「やさしい」「柔らかい」イメージが浮かぶ。これらの要素は、従来男性の魅力としてはあまり重視されておらず、女性の魅力としては好ましいと感じられやすい。従って、「しっとり」が「人間の全体像」を表すとき、女性に用いられることが多いのだと考えられる。

別義2-2<物理的空間に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

- (20) 山口旅館。木造二階建てで明治初年の創業。むかしながらの湯治場の雰囲気を残しながら、近代的な施設もそなえている。しっとりとした風情のある名旅館だ。(BCCWJ 芦原伸著 『全国効能別温泉ガイド』)
- (21) 月明かりの下、市民に伝統芸能を楽しんでもらおうと、名古屋市主催の十五夜コンサートが二十二日夜、同市熱田区熱田西町の白鳥庭園で行われた。(中略) 薪の火が揺れる中、最初に演じられたのは、和泉宗家の狂言。続いて、琴、尺八などによる邦楽演奏があり、会場はしっとりした雰囲気に包まれていた。(中日新聞 1994.09.23)

例(20)(21)の「しっとり」は、物理的空間の雰囲気を表している。例(20)では、「旅館のむかしながらの湯治場の雰囲気」が、歴史を感じさせる。現在まで続いて営業していることから、変動せず安定していると言える。このような「明治初年の創業」の旅館にいと、心が癒され落ち着くため、その空間に潤い及び落ち着きがあると感じられる。例(21)では、伝統芸能のコンサートの会場の雰囲気について述べられている。「月明かりの十五夜」「薪の火が揺れる中」といったことから、きらびやかな照明などのあるコンサートではないとわかる。また、「狂言」「琴、尺八などによる邦楽演奏」といった伝統芸能は、いずれも長い歴史を感じる。そのような会場にいと、心が癒され落ち着くため、その

空間に潤い及び落ち着きがあると感じられる。

別義 2-3 <人の営みによって作られたものに潤い及び落ち着きがある
と感じられ好ましく捉えられるさま>

(22) あの乱れに乱れた過去は清算し、中年にさしかかってきたせいもあるが、
落ち着いたしっとりした生活を送るようになる。(BCCWJ『ナポレオン
とジョゼフィーヌ』 ジャック・ジャンサン著;滝川好庸訳 中央公論社
1987)

(23) これらの文章は、春への思いや風景などに郷愁や寂しさをしっとり
と重ねて書いたもので、それぞれいい味を出しました。

(毎日新聞 2006.05.24)

例(22)では、「乱れた過去を清算した」とあり、中年になってからの生活は、
乱れておらず安定した、ゆとりのあるものだということになる。このような生
活には、潤いがあり、心が落ち着く。例(23)では、「春への思いや風景などに郷
愁や寂しさ」といったことから、「文章」が静けさや落ち着きを感じさせるもの
であることがわかる。2つの例において、「生活」や「文章」の潤い及び落ち着
きのある雰囲気「しっとり」で表されている。

以上見てきたように、「雰囲気」を表す別義 2 は、「視覚」「聴覚」などと関わ
るが、別義 1 のように、特定の単一の感覚で捉えられるのではなく、複合的に
捉えられるものだと考えられる。

3.3 「しっとり」の意味のネットワーク

本節では、「しっとり」の2つの別義を再掲し、プロトタイプの意味を認定し
たうえで、別義間の関係及び、すべての意味のネットワークを提示する。

以下に、これまで検討した2つの別義を再掲する。

別義 1 <対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-1 <対象に水分があると触感で感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-2 <色に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-3 <音声に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

事例 A <匂いに潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

事例 B <味に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2 <対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2-1 <人間の全体像に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2-2 <物理的空間に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2-3 <人の営みによって作られたものに潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

本稿では、別義 1-1 を「しっとり」のプロトタイプの意味として認定する。認定の理由は、以下の3点である。

第一に、別義 1 は五感的経験として、身体性が高く、認知されやすいということである。五感の中では、「触覚」の定着度が最も高い⁴。

第二に、別義 1-1 が母語話者にとって直観的に基本的だと感じられるということである。つまり、「しっとり」と聞いたときに、母語話者は直観的に触覚に関わる例を最初に思い浮かべる⁵。

第三に、「しっとりした色/音声/匂い/味」、「しっとりした女性/空間/生活」を理解するときに、別義 1-1 の「水分がある」という本来の意味が二次的に活性化⁶される。つまり、別義 1-1 を起点として多くの多義的別義を拡張させているということである。

本稿は、母語話者の判断と実例の存在を重視し、別義 1-1 をプロトタイプの意味と認定する。続いて、多義的別義間の相互関係について検討していく。

別義 2 は、別義 1-1 から拡張したと考えられる。分析からわかるように、別義 2 の下位別義はいずれも別義 1-1 の「水分がある」という意味に支えられており、別義 1-1 の「二次的活性化」が実現される。別義 1-1 と、別義 2 の各下位別義の間には、「潤いがあると感じる」という類似性を抽出でき、メタファー⁷によって拡張していると考えられる。

「しっとり」の多義的別義間の相互関係により、「しっとり」のすべての意味のネットワークは次のように示すことができる。

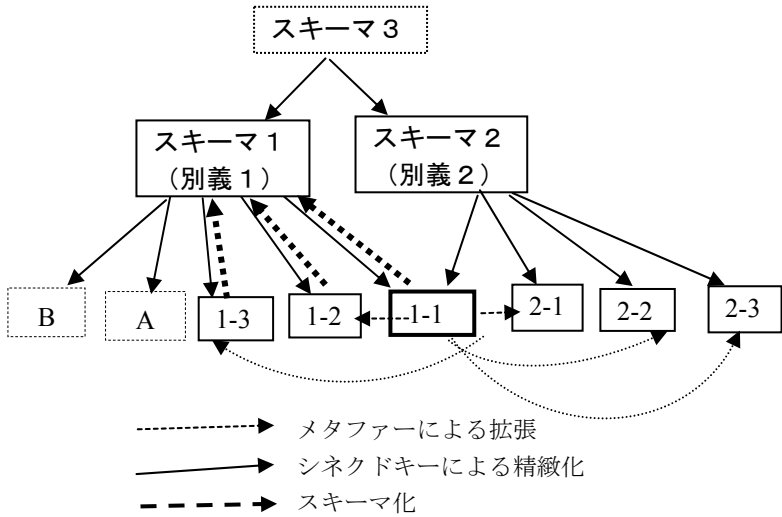


図1 「しっとり」の意味のネットワーク

図1では、太線のボックスで囲まれた別義1-1がプロトタイプ的意味であり、最も容易に喚起され、定着度が最も高いことを示している。まず、別義1-1と別義1-2及び別義1-3の間には、類似性が認められ、1つのカテゴリーに組み込まれたわけであるが、感覚器官の違いがあり、別義1-2、別義1-3は、別義1-1からの拡張例としてカテゴリー化される。しかし、三者の間には、＜対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま＞という共通性があるため、この共通性がスキーマ1として抽出される。このスキーマ1が、別義1であり、カテゴリーの中に階層的に組み込まれる。ここで、別義1-1、別義1-2、別義1-3は、スキーマ1の精緻化された例としても考えられ、シネクドキー⁸により関係づけられる。そして、事例A、事例Bについて、分析での掲載例に、多少の不自然さを感じる人もいるようであるが、多くの日本語話者にとって、理解可能である。この事例A、事例Bが容認されるのは、スキーマ1が活性化されるためであり、このスキーマ1、つまり別義1は単位として定着している

と考えられる。別義 1-4、別義 1-5 の定着度はスキーマ 1 ほど高くないので、点線のボックスで囲まれている。別義 1-4、別義 1-5 は、スキーマ 1 の精緻化されたものであり、シネクドキーにより関係づけられる。

次に、別義 1-1 と別義 2-1、別義 2-2、別義 2-3 の間には、＜対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま＞という類似性が認められるため、別義 2-1、別義 2-2、別義 2-3 は、別義 1-1 の拡張例であり、この 3 つの拡張に伴い、スキーマ 2 が抽出される。このスキーマ 2 が別義 2 である。別義 1-1 と別義 2-1、別義 2-2、別義 2-3 は、スキーマ 2 の精緻化された例としても考えられる。

最後に、スキーマ 1（別義 1 ＜対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま＞）とスキーマ 2（別義 2 ＜対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま＞）の間に、＜対象に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま＞という類似性が認められ、スキーマ 3 が抽出される。スキーマ 3 の定着度が最も低い。

4. まとめ

本稿は、「しっとり」の多義的別義とプロトタイプの意味を認定し、多義的別義間の相互関係と各別義の定着度の違いも反映させて、すべての意味のネットワークを明示した。このような分析がネットワーク・モデルの有効性を示している。

注

- 1 国広(1982:97)は、多義語を「同一の音形に、意味的には何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」と定義している。
- 2 実例中、分析対象語には下線を施した。実例の出典は例文の後ろの()に示し、出典が記されていないものはすべて作例である。
- 3 初山(2001:32)が提案している 4 つの課題として「(それぞれ確立した) 複数の意味の認定」、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」がある。
- 4 『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』では、「しっとり」の検索例は、総計 642 件であり、判断しにくい 19 例を除いた 623 件の内、360 件が「触覚」に用いられる。
- 5 「しっとり」のプロトタイプの意味を認定するにあたり、日本語母語話者 1 2

- 名に「しっとり」と聞いて、何が最初に想起されるのか」というテストを行った。判定者は、22歳から35歳までの男性4名、女性8名、愛知県、宮城県、東京都、岐阜県、三重県出身の文科系大学院に在籍している大学院生である。その結果、12名の日本語話者が触覚に関わる例を最初に浮かべた。
- 6 本来の意味が、新たな意味あるいはその場で意図されている意味を背後で支えることを、本来の意味の「二次的活性化 (secondary activation) という (それに対して、新しい意味あるいはその場で意図されている意味は、「一次的に」つまり、第一のものとして活性化、顕在化する)。 初山(2010:38)
- 7 メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。 初山 (2002:65)
- 8 シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。 初山 (2002:69)

参考文献

- 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店:東京.
- 小野正弘 (2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館：東京.
- 新地綾(1997)「形容詞<重い>の多義性に関する認知言語学的考察」『言語科学論集』3,77-104.
- 飛田良文・浅田秀子 (2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版：東京.
- 初山洋介(1993)「多義語分析の方法—多義的別義の認定をめぐる—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』1,35-57.
- 初山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデル比喩」『認知言語論考』1,29-58. ひつじ書房：東京.
- 初山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』研究社：東京.
- 山口仲美 (2003)『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社：東京.

例文出典

KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

朝日新聞オンライン記事データベース

<http://database.asahi.com/>

毎日新聞オンライン記事データベース

<https://dbs.g-search.or.jp/>

中日新聞オンライン記事データベース

<http://ace.cnc.ne.jp/>